



東京ガス株式会社 2007年度第3四半期決算説明会

2008年1月31日

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場、原油価格の変動ならびに天候の異変等があります。



2007年度第3四半期決算の概要

第3四半期決算総括（対前期実績）

■前年同期比 増収減益

<プラス要因>

- ・原料費調整制度による料金単価増
- ・工業用・卸供給を中心としたガス販売量の増

<マイナス要因>

- ・LNG価格高騰等による原材料費の増
- ・退職給付引当金の数理差異償却の増
- ・税制改正による減価償却費の増

■単体第3Q経常利益 対前期の主な要因分析

ガス粗利の悪化	-422億円
退職給付引当金数理計算上差異等	-173億円
減価償却費の増	-61億円
政策強化(電化対抗、保安etc.)等	-58億円
営雑・附帯収支増	+9億円
営業外収支改善	+15億円
-----	-----
単体経常利益	772億円→80億円 -692億円

(億円未満切捨て)

	FY07 1~3Q	FY06 1~3Q	増減	
売上高	10,009	9,380	+629 (+6.7%)	
営業利益	234	945	-711 (-75.2%)	
経常利益	222	881	-659 (-74.8%)	
第3四半期純利益	127	595	-468 (-78.5%)	
為替 (円/\$)	117.35	116.19	+1.16	
原油 (\$/bbl)	JCC価格	73.33	65.50	+7.83
	当社原料(LNG)費			
	適用原油価格*	66.07	65.17	+0.90



* 当社原料(LNG)費適用原油価格にはJCCが約3ヶ月遅れて反映される。

2

【第3四半期決算総括〔対前年〕】

本第3四半期は、原料費調整制度による料金単価の上昇や工業用・卸供給を中心としたガス販売量の増加があったものの、LNG価格の高騰等による原材料費の増加、退職給付引当金の数理差異償却の増加、税制改正による減価償却費の増加等により、前年同期比で増収減益となりました。

第3四半期の業績は下の表に記載しております。

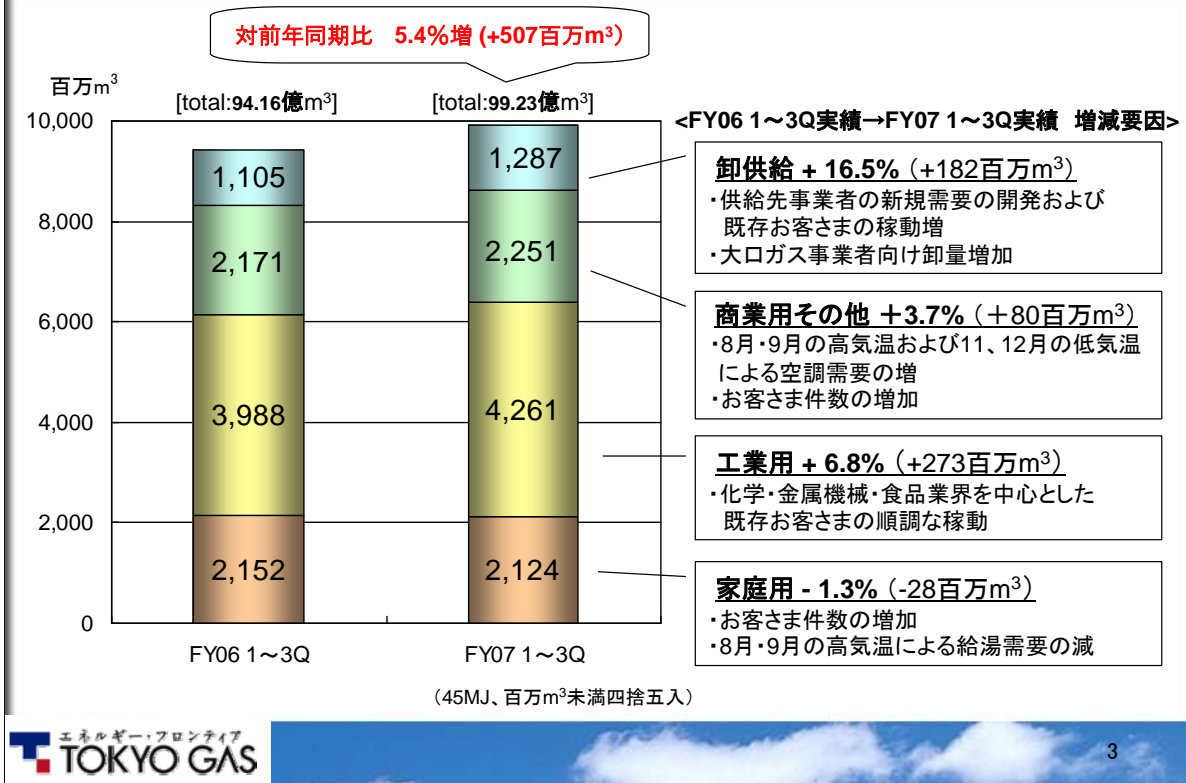
売上高は前期比629億円、6.7%増の1兆9億円となりました。

営業利益は前期比711億円、75.2%減の234億円、経常利益は前期比659億円、74.8%減の222億円となりました。

また、四半期純利益は前期比468億円、78.5%減の127億円となりました。

なお、ページ右上に単体経常利益ベースの要因分析を記載しておりますのでご参照ください。

ガス販売量実績（対前期実績）



【ガス販売量実績】

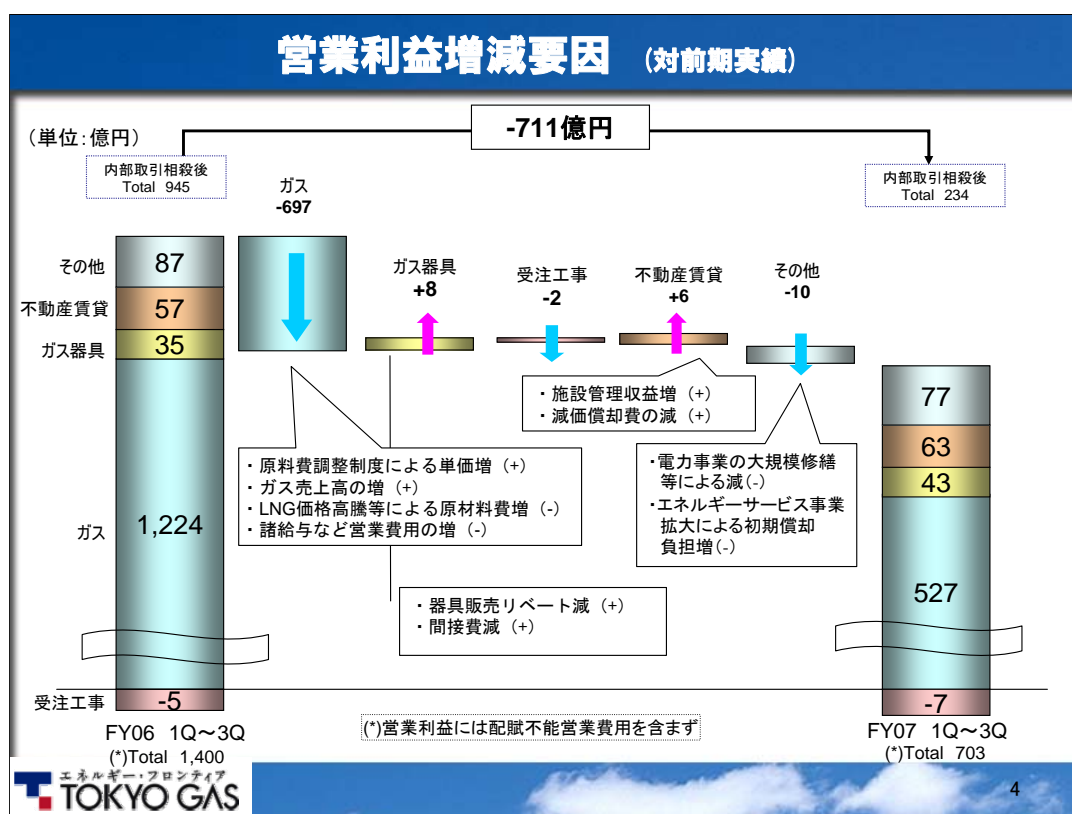
ガス販売量は、前期比 5億7百万m³、5.4%増の99億23百万m³となりました。これを用途別に見てみますと、

家庭用は、お客さま件数は増加したものの、8月・9月における高気温の影響で給湯需要が減少したため、前期比28百万m³、1.3%減の21億24百万m³となりました。

工業用については、化学・金属機械・食品業界を中心としたお客さまの順調な稼働等により、前期比2億73百万m³、6.8%増の42億61百万m³となりました。

商業用その他は、8月・9月の高気温および11月・12月の低気温影響により空調需要が増加し、前期比80百万m³、3.7%増の22億51百万m³となりました。

卸供給については供給先事業者の新規需要の開発および既存お客さまの稼働増等により前期比1億82百万m³、16.5%増の12億87百万m³となりました。



【セグメント別営業利益増減要因】

- ・**ガスセグメント**については、原料費調整制度による料金単価の上昇や、ガス販売量の増により売り上げは伸びたものの、LNG価格の高騰や諸給与等営業費用の増加などにより、前期比で697億円減の527億円となりました。
- ・**ガス器具セグメント**は、器具販売リベートの減少や間接費の削減などにより8億円増の43億円となりました。
- ・**受注工事部門**については、営業費用の増加などにより、2億円減少の▲7億円となりました。
- ・**不動産賃貸**については、施設管理収益の増加や減価償却の進行などにより、6億円増の63億円となりました。
- ・**その他セグメント**については、電力事業における大規模修繕やエネルギーサービス事業拡大による初期償却負担の増加等により、10億円減の77億円となりました。



2007年度通期収支の見通し

2007年度 通期収支見通しについて

■ 中間決算発表時 (10/29) 見通し比 増収減益

- ・ 連結子会社の売上増 (+)
- ・ LNG価格高騰等による原材料費の増 (-)

■ 単体経常利益 対10/29見通し比 要因分析

原材料費の増加	-182億円
営雑・附帯収支の悪化	-8億円

単体経常利益	580億円→390億円	-190億円
--------	-------------	--------

(億円未満切捨て)

	FY07見通し (1/31時点)	FY06 実績	FY07見通し (10/29時点)	対FY06 実績	対10/29 見通し
売上高	14,690	13,769	14,630	+921 (+6.7%)	+60 (+0.4%)
営業利益	620	1,623	810	-1,003 (-61.8%)	-190 (-23.5%)
経常利益	570	1,560	760	-990 (-63.5%)	-190 (-25.0%)
当期純利益	370	1,006	540	-636 (-63.3%)	-170 (-31.5%)
為替 (円/\$)	115.46	116.97	118.16	-1.51	-2.70
原油 (\$/bbl)	JCC価格*1	63.46	71.42	+14.30	+6.35
	当社原料(LNG)費 適用原油価格*2	70.73	63.99	+6.74	+2.83
気温 (°C)	16.7	16.8	-	-0.1	-



*1 JCC価格見通し 1月：\$92/bbl、2,3月：\$93/bbl、為替見通し 1-3月：110円/\$
*2 当社原料 (LNG) 費適用原油価格にはJCCが約3ヶ月遅れて反映される。

6

【 2007年度通期見通し〔対10/29見通し〕】

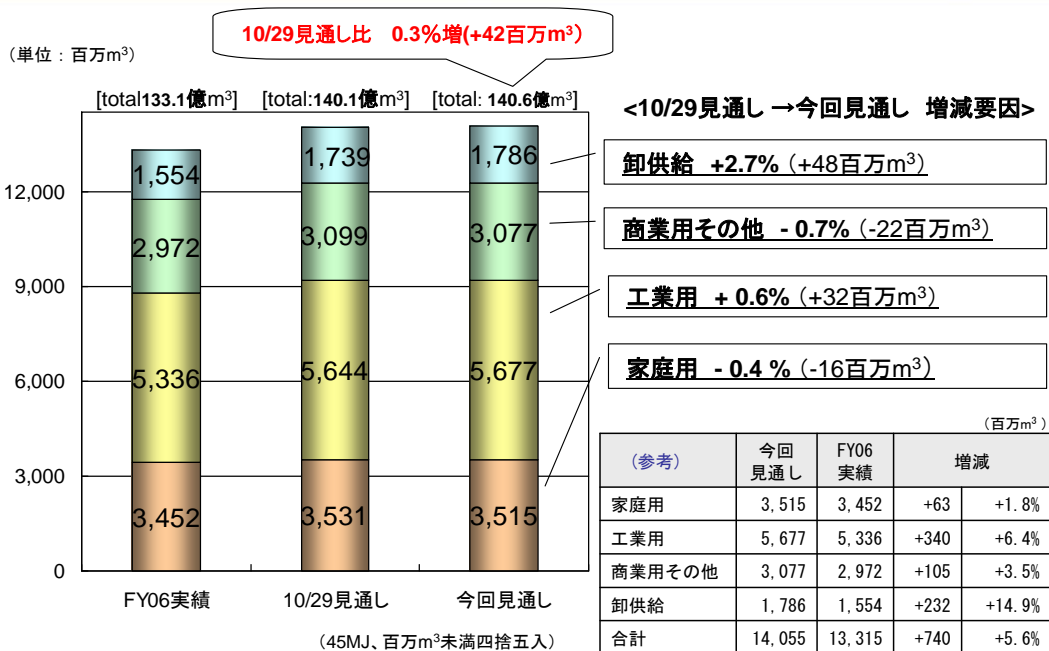
売上高は中間決算発表時の見通しに比べ、60億円、0.4%増の1兆4,690億円を見込んでおります。これは、主として連結子会社における売上増によるものです。

一方、費用面では、LNG価格高騰等により単体ベースで182億円の原材料費の増加を見込んでいます。その結果、営業利益は前回の見通しに比べ190億円、23.5%減の、620億円となる見通しです。

経常利益は、190億円、25.0%減少し、570億円となる見通しです。また、当期純利益は170億円、31.5%減少し、370億円となる見通しです。

なお、ページの右上に単体経常利益ベースでの要因分析をお示ししておりますので、ご参照ください。

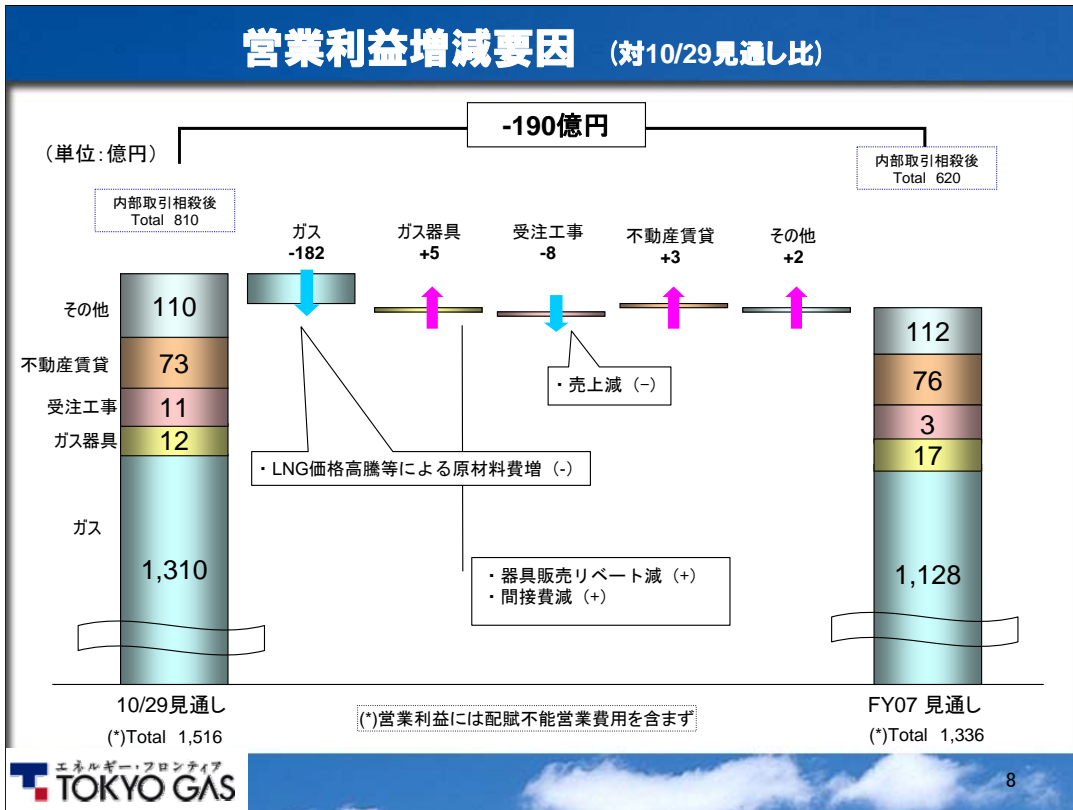
ガス販売量見通し



【ガス販売量見通し〔対見通し〕】

ガス販売量全体では、工業用および卸供給を中心とした堅調な伸びが、家庭用および商業用の減少をカバーし、前回見通しに比べ42百万m³増加の140億55百万m³となる見通しです。

各用途別の増減については、資料に記載のとおりです。



【営業利益増減要因】

セグメント別の営業利益の見通しについて、前回見通しと比較した増減要因は、ご覧のとおりです。

参考資料

主要計数表(通期-①)

(単位:億円)

	FY07 見通し	FY06 実績	10/29 見通し	対前期	対10/29 見通し	
売上高	14,690	13,769	14,630	+921 (+6.7%)	+60 (+0.4%)	
営業利益	620	1,623	810	-1,003 (-61.8%)	-190 (-23.5%)	
経常利益	570	1,560	760	-990 (-63.5%)	-190 (-25.0%)	
当期純利益	370	1,006	540	-636 (-63.3%)	-170 (-31.5%)	
EPS(円)	13.93	37.50	20.33	-23.57 (-62.9%)	-6.40 (-31.5%)	
BPS(円)	292.52	293.11	298.92	-0.59 (-0.2%)	-6.40 (-2.1%)	
TEP(東京ガス版EVA)	-50	538	62	-588 (-109.3%)	-112 (-180.6%)	
ガス販売量(百万m ³)	14,055	13,315	14,013	+740 (+5.6%)	+42 (+0.3%)	
為替(円/US\$)	115.46	116.97	118.16	-1.51	-2.70	
原油 (\$/bbl)	JCC価格*1	77.76	63.46	71.42	+14.30	+6.35
	当社原料(LNG)費 適用原油価格*2	70.73	63.99	67.90	+6.74	+2.83
	気温(°C)	16.7	16.8	—	-0.1	—



*1 JCC価格見通し 1月: \$92/bbl、2,3月: \$93/bbl、為替見通し 1-3月: 110円/\$
 *2 当社原料(LNG)費適用原油価格にはJCCが約3ヶ月遅れて反映される。

主要計数表(通期-②)

(単位:億円)

	FY07 見通し	FY06 実績	10/29 見通し	対前期	対10/29 見通し
総資産(a)	17,610	16,926	17,610	+684 (+4.0%)	—
自己資本(b)	7,770	7,951	7,940	-181 (-2.3%)	-170 (-2.1%)
自己資本比率(b)/(a)	44.1%	47.0%	45.1%	-2.9%	-1.0%
有利子負債残高	6,200	5,254	6,150	+946 (+18.0%)	+50 (+0.8%)
営業キャッシュフロー (c)+(d)	1,810	2,338	1,980	-528 (-22.6%)	-170 (-8.6%)
当期純利益(c)	370	1,006	540	-636 (-63.3%)	-170 (-31.5%)
減価償却費(d)	1,440	1,331	1,440	+109 (+8.2%)	—
設備投資	1,320	1,245	1,340	+75 (+6.0%)	-20 (-1.5%)
ROA : (c) / (a)	2.1%	5.9%	3.1%	-3.8%	-1.0%
ROE: (c) / (b)	4.7%	13.2%	6.8%	-8.5%	-2.1%

(注) ROA=当期純利益/総資産(期首・期末平均), ROE=当期純利益/株主資本(期首・期末平均)
営業キャッシュフロー = 当期純利益 + 減価償却費